

[公益5] 大学教職員の職能開発及び大学教員の表彰

5-1 情報通信技術を活用した優れた授業研究の評価と表彰

<事業計画>

教育改善に ICT を利活用する FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動の振興普及を促進・奨励し、優れた授業研究の選考・表彰を通じて、学修者本位の教育の実現、大学教育の質の向上を図るため、文部科学省の後援を受けて、国立・公立・私立の大学・短期大学の教員を対象に、オンライン形式で「ICT 利用による教育改善研究発表会」を実施する。

<事業の実施結果>

「ICT 利用教育改善発表会運営委員会」を継続設置し、「ICT 利用による教育改善研究発表会」を開催し、優れた教育方法を選定・評価・表彰した。以下に委員会の活動状況を報告する。

ICT 利用教育改善発表会運営委員会

2023 年(令和 5 年)5 月 20 日、7 月 29 日、2024 年(令和 6 年)2 月 2 日に平均 9 名が出席して 3 回開催し、ICT 利用による教育改善研究発表会における開催要項、1 次選考と 2 次選考の運営、Web サイトによる公表、次年度発表募集要項の作成を行った。

(1) 発表者の募集

前年度の運営委員会において発表募集要項を検討し、昨年に引き続きオンライン方式の開催とし、アルカディア市ヶ谷(私学会館)を配信会場するとともに、以下の点について確認を行い、改めた。

- * 発表募集要項のタイトルは、「学修者本位の教育」の表記を加え、「学修者本位の教育と教育の質向上を目指す ICT 利用」とすることを確認した。
- * 発表者は、事前に「発表スライド」と「発表映像ファイル」の提出を行い、発表会当日の「発表映像」配信後の質疑は、原則としてオンラインにて対応することとした。

(2) 発表者の選考

- ① 5 月 20 日の運営委員会で 51 件の応募について書類選考を行い、48 件の発表を確定した。その後、2 件の辞退があり、最終的に 46 件となった。

- ② 1 次選考は、8 月 25 日(金)にアルカディア市ヶ谷の 3 会場において、発表者を除き 125 名が参加し、実施した。発表者は事前に発表映像を提出し、13 分間の発表映像を配信した後、質疑を 5 分間行った。質疑応答は、全員オンラインで実施した。その上で、選考規程にもとづき、選考委員が分担して発表内容及び発表会論文を精査し、以下の基準で 1 次選考を行った。

※ 教育上の問題解決を図るために、ICT 利用による教育改善の目的・目標が明瞭になっていること

※ ICT を利用した教育改善の内容と方法が明瞭になっていること

※ 客観的な評価方法により、教育改善の効果が示されていること

その結果、2 次選考の対象として 8 件を選考した。

発表内容の詳細は、巻末の 2023 年度事業報告書の附属明細書【2-5】を参照されたい。

- ③ 2 次選考は、9 月 23 日(土)に実施し、選考委員全員で 1 次選考の発表を収録したビデオ及び発表会論文を精査し、授賞対象を選考した結果、以下の通り、私立大学情報教育協会賞 1 件を決定した。

2023 年度
ICT 利用による教育改善研究発表会の選考結果

1. 発表会の目的

この発表会は、全国の国立・公立・私立の大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のための ICT 利用による FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質向上を図ることを目的として、1993 年(平成 5 年)より実施しています。

日本の高等教育の向上に資することが極めて期待できる発表に文部科学大臣賞、他の教育分野での対応・展開が期待できる発表に私立大学情報教育協会賞、今後のさらなる発展・展開が期待できる発表に奨励賞を授与し、研究者の教育業績を顕彰します。

2. 選考の経緯

選考	実施日	件数
応募		51 件
書類選考	2023 年 5 月 20 日（土）	48 件選考
1 次選考	2023 年 8 月 25 日（金）	2 件辞退し、46 件の内 8 件選考
2 次選考	2023 年 9 月 23 日（土）	1 件授賞

今年度も引き続きオンラインによる発表会となり、発表者全員に 13 分による発表映像の提出を事前に求め、8 月 25 日に会場から 46 件の研究発表を配信するとともに、質疑は各発表者からオンラインで実施しました。発表会終了後、1 次選考を行い、2 次選考の対象 8 件を選考しました。発表会の視聴参加者は、発表者を除き 125 名(56 短期大学、賛助会員 4 社)でした。その後、9 月 23 日に 2 次選考を行い、1 次選考の発表収録ビデオ及び発表会論文を精査して、1 件の授賞を決定しました。

3. 選考結果

文部科学大臣賞（最優秀賞）	該当なし
私立大学情報教育協会賞（優秀賞）	1 件
奨励賞	該当なし

4. 授賞

【私立大学情報教育協会賞】

「生成系 AI と共生した文章表現基盤教育の実践：次世代医療人育成を目指して」
北海道医療大学 二瓶 裕之 氏、中山 章 氏、木村 治 氏、西牧 可織 氏
[授賞理由]

本発表は、生成系 AI を組み込んで開発した統合型知的学修支援システムを活用して、薬学部初年次の文章指導教育においてグループディスカッション、レポートや文章添削に教育効果の向上を認めた報告である。生成系 AI に教員を演じさせる、学生を演じさせる、相談役を演じさせることで、学生自身が生成系 AI の信頼性や人間による判断の大切さを体験・検証しながら、批判的観点を持つことの重要性を醸成する文章表現基盤教育を実践した。

近年注目を集めている大規模言語モデルに基づいた生成系 AI への教育分野での活用について、本発表は開発した API(Application Programming Interface)の一般公開によって他の教育分野における生成系 AI の活用にも広く道を拓くことが期待できることから、私立大学情報教育協会賞を授与するに相応しいものと考えられる。

(3) 選考結果の表彰

表彰は、11 月 30 日(木)の第 38 回臨時総会で発表者を招待し、文部科学省専門教育課の森 次郎企画官臨席の下、本協会向殿会長から、私立大学情報教育協会賞(優秀賞)の楯と副賞(10 万円)を授与した。

(4) 授賞論文の公表

本協会の Web サイトで公表した。



右から文部科学省専門教育課の森企画官、受賞者の北海道医療大学 二瓶裕之氏
本協会向殿会長